

普及現地情報

堆肥利用推進展示ほの成績報告会を開催（熊本）

熊本市東部地区では、スラリー散布による自給飼料生産が行われてきましたが、この4月から熊本市東部堆肥センターが稼働を開始しました。スラリーから堆肥へと利用形態が変わることから、地域の酪農家から「これまでと同様の収量が得られるのか」という不安の声があったため、「堆肥を利用した飼料用トウモロコシの展示ほ」を設置し、その成績報告会を3月20日にJA熊本市酪農青壮年研究会員を対象に開催しました。

地域の慣行栽培であったスラリー施用の場合と比較しながら、収量性や飼料成分のほか土壌分析結果について説明しました。

堆肥を利用した場合の収量性については慣行栽培と遜色なく、硝酸態窒素含量は低く、安全な飼料が確保できるという調査結果に対し、参加者からは安どの声とともに他の作物の飼料成分値も知りたいとの声が上がりました。また、土壌分析については、カリが過剰に蓄積しているなど地域の栽培体系が現れた結果となっており、今後の改善策について多数の質問があり、土壌分析を実施したいという声もありました。

本年度も、今回報告した結果を反映させた内容で展示ほの設置を計画していますが、引き続き調査への協力を得られることとなったほか、試験内容への意見もあり、参加した酪農家の皆さんの関心の高さがうかがわれました。

展示ほの成績報告会については、地域の他の酪農組合員を対象に開催することも予定しており、引き続き、堆肥の適正利用を推進して参ります。



関連する普及課題名：酪農経営における飼料生産基盤強化の推進

連絡先 県央広域本部農林部農業普及・振興課
地域農業支援班 原野幸子